

さつまいも栽培 土作りから始める 土壌病害対策

近年、南九州さつまいも栽培現場では、糸状菌(カビ)で引き起こす病害で『基腐病』の被害が多発しています。また全国的にも感染が広がっています。
対策として栽培時期別に、防除マニュアルが作成されてますが収束には至っていません。
今年、土壌消毒後(バスアミド)に微生物資材 バイオチャージでの効果確認試験行いました。
一部ご紹介致します。



基腐病被害



土壤改良 微生物資材比較試験① (鹿屋市 サツマイモ圃場)

前年、サツマイモ基腐病被害圃場にて試験

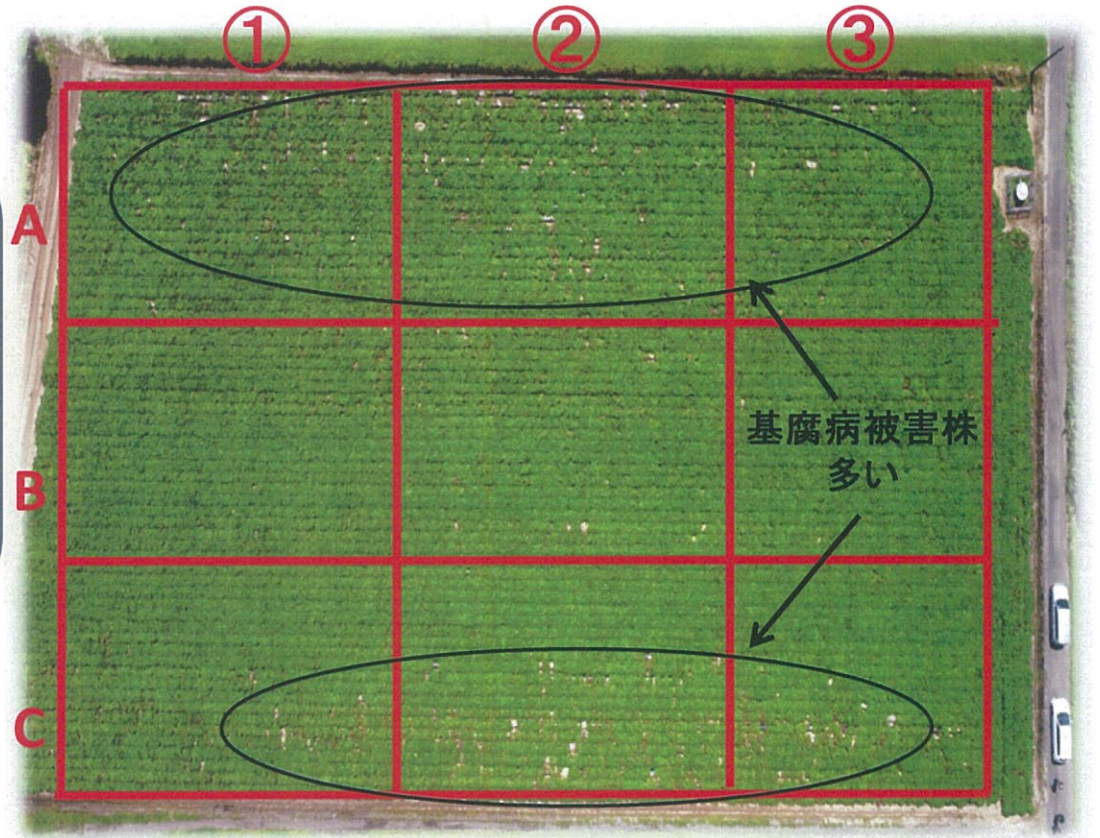
※バスアミド 30kg/10a (2021年1月 土壤消毒処理)



ガス抜き後

- A商材 100kg/10a
- Bバイオチャーシ 100kg/10a
- C商材 100kg/10a 散布処理

※植え付け 2021年4月25日



掘り取り調査(2021年8月26日)

※掘り取り調査

(各微生物資材 健全箇所連続5株×9ヶ所 サンプルング)

土壌改良 微生物資材比較試験② (鹿屋市 サツマイモ圃場)

掘り取り調査(2021年8月26日)

①

②

③

バイオチャージ

上段 健全な芋

下段 出芽芋

商品C

商品A



※出芽芋 収穫29日後



見た目では分からない。
カットしたら腐れ症状あり。

収穫後 基腐病被害率 バイオチャージ<C<A
バイオチャージは、基腐病被害による出芽芋が
他微生物資材より被害少なく、収量も良かった。

さつまいも苗床使用方法

苗床終了後 7～8月

時期:10～11月

時期:12～1月



ガス抜き(最低2回)



地温が必要



バイオ苗・無病親イモの伏せこみ
苗床土壌消毒、準備を終えていれば
定植予定日から逆算して早めに準備
できます。

バスアミド微粒剤 30kg/10a
全面土壌タテ ヨコ2回混和。
ビニールなどで全面被覆

バイオチャージ 60～100kg/10a
土壌病原菌に有効なバチルス菌を
消毒後に直ちに施用し苗床土壌内で
増殖させるように早めに処理する。

さつまいも 本圃使用方法

時期 1～3月

時期:2～4月

時期:3～5月



処理後1ヶ月以上

ガス抜き作業最低2回
全面土壌タテ ヨコ2回混和。
混和時より、深くガス抜きし
ないように注意して下さい。



植付:バスアミド微粒剤+バイオチャージ
施用したら、無病苗(バイオ苗)の定植。

土壌病害害多い圃場には、
畝内にも別途投入する

バスアミド微粒剤 30kg/10a
全面土壌タテ ヨコ2回混和。
土壌表面が平らになるように
しっかり鎮圧する。

バイオチャージ 100～200kg/10a
土壌病原菌に有効なバチルス菌を
消毒後に直ちに全面施用し本圃土壌
内で増殖させ病原菌の増殖を抑える。

増殖には、地温・時間が必要です。

機能性肥料
バチルス・放線菌・カニガラ入り

バイオチャージ Bio Charge

限りある農地に、感謝を込めて

土作りから始める、未来への農業

【 特長 】

- ◎バチルス菌・放線菌の初期増殖を促す為、菌のエサとなる純良有機質を豊富に使用してますから菌体単体での散布より有効菌によるプラス効果を期待できます。
- ◎バチルス菌は、作物残渣・残根・緑肥・堆肥などへの腐熟促進を高めます。
- ◎有効菌の増殖により微生物相の改善をもたらし、有害菌の抑制効果が期待できます（静菌作用）
- ◎化成肥料の成分を含まず、有機100%（JAS規格不適合）。カニ殻入りで、放線菌群の活性を高め連作障害の予防効果が期待できます。

【用途・使用方法】

- ・ **作物残渣・残根処理の腐熟促進**
3～5袋（60～100kg/10a）を全面土壌散布し、混和して下さい。
- ・ **土壌微生物相の改善**
5～10袋（100～200kg/10a）を全面土壌散布し、混和して下さい。
土壌病害ひどい場合は、土壌消毒後ガス抜きをした後で作業を行って下さい。

